

円に内接する正方形の頂点を通る3次関数

$f(x) = ax^3 + bx^2 + cx + d$  ( $a \neq 0$ ) とする。

曲線  $y = f(x)$  は円  $x^2 + y^2 = 1$  と4点のみを共有し、これらの4点はある正方形の頂点になっている。 $f(x)$  を求めよ。

< '91 東北大 >

【戦略】

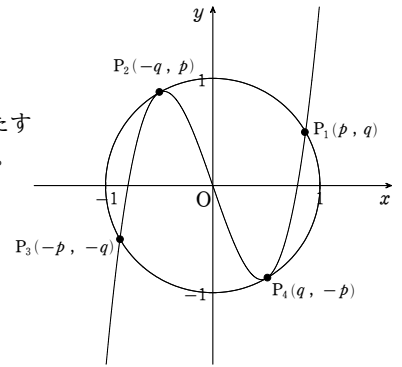
最終的に条件を翻訳して立式すると、次数が高い連立方程式となり、土などうとうしいことになります。

対称性の活用により無駄を省く工夫をしましょう。

$a > 0$  のときのものが見つければ、 $y$  軸について裏返すことにより  $a < 0$  のものも見つかるわけですから、結局は  $a > 0$  のときのみで事足りることになります。

【解答】

対称性から  
 $a > 0$  のときの題意を満たす  $f(x)$  と  $a < 0$  のときの題意を満たす  $f(x)$  は  $y$  軸について対称である。



したがってまず  $a > 0$  のときを考えることにする。

正方形の4頂点を反時計回りに  $P_1, P_2, P_3, P_4$  として、 $P_1(p, q)$  ( $p > 0, q > 0$ ) として一般性を失わない。

**注意**  $p = 0$ , または  $q = 0$  のときは明らかに題意を満たさない。

このとき、 $P_2(-q, p), P_3(-p, -q), P_4(q, -p)$  と表せる。

$y = f(x)$  が  $P_1, P_3$  を通るので

$$\begin{aligned} q &= ap^3 + bp^2 + cp + d \\ -q &= -ap^3 + bp^2 - cp + d \end{aligned}$$

辺々加えて整理すると  $bp^2 + d = 0 \dots ①$

一方  $y = f(x)$  が  $P_2, P_4$  を通るので

$$\begin{aligned} p &= -aq^3 + bq^2 - cq + d \\ -p &= aq^3 + bq^2 + cq + d \end{aligned}$$

辺々加えて整理すると  $bq^2 + d = 0 \dots ②$

①-② より  $b(p+q)(p-q) = 0$

$p > 0, q > 0$  ゆえ  $b(p-q) = 0$

$p = q$  のときは  $P_1P_2$  が  $x$  軸と平行となり題意を満たさないので、 $b = 0$

①より  $d = 0$  も得て、 $f(x) = ax^3 + cx$

奇関数であるのは最初から見えている人には見えているでしょう。

$a > 0$  より、 $P_1$  が交点で、 $P_4$  が接点である。

( $P_4$ での接線) //  $OP_1$  より、 $f'(q) = \frac{q}{p}$  で  $3aq^2 + c = \frac{q}{p}$

すなわち、 $3apq^2 + cp = q$

3次曲線と円が接することの翻訳

$(p, q), (q, -p)$  が  $y=f(x), x^2+y^2=1$  上にあることもふまえてまとめると

$$\begin{cases} ap^3+cp=q \dots \textcircled{3} \\ aq^3+cp=-p \dots \textcircled{4} \\ p^2+q^2=1 \dots \textcircled{5} \\ 3apq^2+cp=q \dots \textcircled{6} \end{cases}$$

ここでも対称性を用います。  
 $f(x)$  が奇関数だと分かったのですから  
 右半分 ( $x \geq 0$ ) の  $P_1, P_4$  が  
 $y=f(x)$  上、かつ  $x^2+y^2=1$  上  
 という条件で十分ですね。

$\textcircled{6}-\textcircled{3}$  より  $3apq^2=ap^3$

$a > 0, p > 0$  より、 $3q^2=p^2$

これと  $\textcircled{5}$ 、および  $p > 0, q > 0$  より、 $p = \frac{\sqrt{3}}{2}, q = \frac{1}{2}$

$\textcircled{3}, \textcircled{4}$  に代入すると、
$$\begin{cases} \frac{3\sqrt{3}}{8}a + \frac{\sqrt{3}}{2}c = \frac{1}{2} \\ \frac{1}{8}a + \frac{\sqrt{3}}{2}c = -\frac{\sqrt{3}}{2} \end{cases}$$

これら 2 式より、 $a = \frac{8}{\sqrt{3}}, c = -\frac{5}{\sqrt{3}}$

以上から、 $a > 0$  のとき題意を満たす  $f(x)$  は  $f(x) = \frac{8}{\sqrt{3}}x^3 - \frac{5}{\sqrt{3}}x$

$a < 0$  のときは、この  $f(x)$  を  $y$  軸について対称移動したもののなので

$$f(x) = -\frac{8}{\sqrt{3}}x^3 + \frac{5}{\sqrt{3}}x$$

以上から求める  $f(x)$  は  $f(x) = \pm \frac{8}{\sqrt{3}}x^3 \mp \frac{5}{\sqrt{3}}x$  (複号同順) … 答

【総括】

省エネできる部分は省エネしましょう。

一般性が高い設定で文字も多いですが、同時に対称性が高い設定でもあります。

その対称性を活かさなければ、文字の多さだけが残るという最悪の状態になってしまいます。